

資料

呉市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

呉市の工業用水道事業は、戦後の「平和産業港湾都市」建設の一布石として行った企業誘致で、昭和26年に呉市に進出してきた東洋パルプ(株) (現王子製紙(株))への給水によって始まる。創設当時の1日配水能力は、58,000m³。その後の工業用水道の需要増に対応するため、3期の拡張工事を重ね、現在、配水能力130,000m³をもって、5社に給水を行っている。

○事業の経緯

呉市は、旧海軍とともに歩んできた歴史を持つ。

本市水道は、この旧海軍の軍用水道からの余水分与により始まる。終戦に至るまで給水能力34,500m³/日にすぎなかったが、旧軍港市転換法(昭和25年6月施行)により海軍水道施設の全部を譲与され、給水能力に相当の余裕を持つに至った。この余裕水をもって、敗戦からの都市再生を図るべく企業誘致を熱心に進めていった。

当時は、工業用水道の名称はなく、後年工業用水道となる施設は、上水道整備事業の一環として施行し、創設工事を行った。

創設期の工業用水道は、昭和26年度～28年度で、呉、広両地区への給水のための送配水管の補修及び布設工事、分水井築造等の整備拡充を行い1日最大給水能力58,000m³を確保した。

その後、誘致工場の順調な発展により、将来の工業用水不足が懸念されたため、昭和31年度に第1期拡張工事を施行し、三坂地水系を10,000m³/日増強して18,000m³/日とし、二河水系の12,000m³/日を加えて、1日最大給水能力を80,000m³とした。

昭和32年度～34年度の第2期拡張工事では、30,000m³/日の取水計画に基づき、広町二級に容量60,000m³の調整池を築造し、1日最大給水能力を110,000m³とした。

昭和35年度～36年度の第3期拡張工事では、二級水系送水施設等を拡張して20,000m³/日を増強し、1日最大給水能力を130,000m³とし、現在に至っている。

○施設の概要

呉市工業用水道の水源は、黒瀬川水系、二河川水系、太田川水系(県工業用水道からの水量振替分)の河川

○ユーザーの概要

(平成19年3月末現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
鉄鋼	2	51,600
製紙	1	53,500
化学	1	2,600
木材	1	2,000
計	5	109,700

表流水と三坂地水源地の地下水からなる。

広地区3社への給水は、黒瀬川の水を二級水源地に取り入れ、沈砂処理したものと三坂地水源地の地下水により行っている。

呉地区2社への給水は、二河川の水を二河水源地取水口で取り入れ宮原浄水場へ導水、場内の工業用水道沈澱池で処理した水及び太田川から導水した水により行っている。

総配水管延長は、22,817mとなっている。

○事業の特徴

施設の特徴としては、前述のとおり、旧海軍から譲与を受け、現在も稼動している施設が多数ある。

二河水源地の取水口は、呉鎮守府設置当初、軍用水道施設として利用されていたもので、戦後呉市が引き継ぎ工業用水道施設として現在も稼動している。同施設は、平成10年10月国の登録有形文化財に登録されている。

○工業用水道給水区域図



○呉市水道局ホームページアドレス

<http://www.water-kure.jp/>